



2025年までの残された300週

新年あけましておめでとうございます。無事に2019年を迎えることができました。新年を迎えるに当たり、残された300週の時間で、何ができるのかを問いたいと思います。300週後、つまり6年後には、2025年を迎えることとなります。今まで見えにくかった社会のひずみが、多方面で見えて来ることを案じます。

2018年12月に厚労省は2018年の人口動態の年間推計を出しました。それによると出生数が92万1千人に対して死亡数が136万9千人、その差は44万8千人が減少し、前年に比べて5万4千人、さらに人口減少が増えています。人口減少は、社会保障費の問題とあわせて、まち作りにも大きく影響していくことでしょう。人口減少という問題は、これからの日本に大きな影を落とします。在宅医療の現場でも、明らかに在宅で最期を迎えたいと希望される人が増えてきていると感じています。

めぐみ在宅クリニックは、2018年の年間在宅看取り数は335人となりました。病院で亡くなられた116人を併せると451人が亡くなられました。1月1日元旦ではありますが、午前3時過ぎと午前9時過ぎに看取り往診がありました。明らかに在宅での看取り数は増えてきています。今年在宅看取り数が年間365名を越えるかもしれません。

めぐみ在宅クリニックでカバーできる範囲の患者さん・家族だけがよければ良いとは決して思いません。どこに住んでいても、どんな病気でも安心して最期を迎えることができる社会を目指したいと思い、様々な活動を続けて来ました。

・もし、自分自身が何か大きな困難を抱えて苦しい時、その苦しみとどのように向き合うと良いのかわかること。

・もし目の前に誰かが苦しんでいたならば、その人に誠実に関わる人が増えること。

医療だけではなく、地域で暮らす多くの子どもから大人からお年寄りまで、困難な時代にあって、それでも自分自身の苦しみと向き合い、自分を認め、人に優しくなるコミュニティに近づける可能性を探っています。

あと300週という時間で、何ができるのでしょうか。正月休みやGW、そして平日はめぐみ在宅クリニックで診療を行いつつ、週末を利用して各地で人材育成の活動を心がけてきました。全国に仲間も増えました。しかし、まだまだ認知度は低く、道のりはきわ

めて厳しいかもしれませんが、しかし、夢をあきらめたくはありません。

限られた時間で、最大の効果が得られるためには、多くの皆様の力が必要です。そのために一部の人しか理解できない専門用語ではなく、多くの人がわかる言葉で、伝えて行く必要性を感じています。

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座は、定期的な開催に加えて、今まで開催できなかった地方都市での開催も2019年度には複数箇所で開催しています。地域学習会も盛んになってきました。さらにその輪が広がるように各地域の活動を応援していきたいと思っています。

医学の世界では、論文に掲載されて評価を受けます。そのために、何らかの形で活動を論文掲載できるようにしたいと思っています。すでに臨床研究としていくつか走っている調査があります。このあたりが論文に掲載されれば、さらに弾みがつくことでしょう。少しでもこのテーマに関心を寄せ、伝えていける仲間を増やす可能性を探っています。その1つがいのちの授業プロジェクトです。苦しみと向き合うことや、苦しみを抱えながらも自分を認め、人に優しくなる可能性を医療・介護という狭い枠ではなく、生涯教育として伝える可能性を模索しています。

この活動を応援してくれる人が増えていくための方策も必要です。このあたりは、皆さんの力を借りて、各界の著名人にサポーターになって頂けるように何かしらの方策を考えていきたいと思っています。

残された300週、願わくば、苦しむ人と誠実に関われる人が全国に増えますように…そんな思いを心に秘めて、今年1年走り続けることを、あらためて心に誓いました。そしてこの活動に、自分の人生を献げようと思います。皆様、今年もよろしく願いいたします。

小澤竹俊

診療実績

	2006- 2017年	2018年 1-9月	2018年 10月	2018年 11月	2018年 12月	2018年 計	総計
訪問回数	60,086	7,958	892	921	896	10,667	70,753
自宅永眠	1,985	188	27	24	28	267	2,252
施設永眠	281	52	5	5	6	68	349
在宅 (自宅+施設)	2,266	240	32	29	34	335	2,601
病院永眠	594	93	11	8	5	117	711